



その時、宇宙飛行士たちは何を見、何を感じたのか。

アポロ計画の神髄を描いた唯一のドキュメンタリー映画

# 宇宙へのフロンティア

FOR ALL MANKIND

アポロ月面着陸20周年記念特別企画 U.S.フィルムフェスティバル1989年ドキュメンタリー部門グランプリ受賞作品





# FOR ALL MANKIND

## ●推薦のことは

「母なる星の切ないほどの美しさに驚き、絶句し、泣いた。」 新井 満(作家)

月まで行き、月に着陸し、月から帰還することによって人類は、初めて宇宙人になった。月旅行の間中、飛行士たちは何を見ていたか。地球を見ていた。そして、自分たちが目指す真の目的地が、月ではなく地球であることに思い至った。「母を尋ねて三千里」という物語があるではないか。マルコ少年とは飛行士たちのことであり、私たち人類のことであったのだ。旅路の果てにやっとめぐりあえた母なる星は、心細いほど小さく、切なくなるほど美しかった。

諸君…。この映画を見ることは、諸君が、まだ見ぬ諸君の母と出会うことなのである。

## ●作品概要

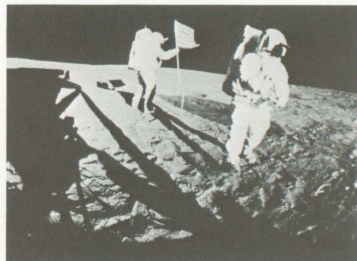
1968年12月から1972年11月まで4年間・9回の有人飛行で、24人の男たちが宇宙への旅に出ました。彼らは、惑星(地球)を離れて別世界へ向かった最初の人類でした。この映画は宇宙を初体験した彼らが持ち帰った、人類へのメッセージです。その肉声は感動なくして聞くことはできません。それは人類の歴史のなかに深く刻まれ、すべての人を抱擁するでしょう。

『宇宙へのフロンティア』は、アポロ宇宙飛行士の月への実体験を35mm劇場映画で再現。その使用フィルムはNASA・9回の月面探索で撮影された何百万フィートの中から厳選されたものです。

『宇宙へのフロンティア』は、飛行士たちの月へのアプローチをまるで目の前で起こっているかのように展開していきます。この映画は観客であるあなたが、あたかも宇宙飛行士とともにあるかのように、月面をあなたの目で見、あなたの手で触れるのです。人類が長い長い間夢に見た月への飛行を、あなたとともに果たす画期的なドキュメントです。

『宇宙へのフロンティア』から学ぶもの、それはスケールの大きな思想です。暗黒の宇宙に浮かぶ青い地球の美しさ、その発見です。この「かけがえない宇宙船・地球号」こそ、私たちの最大の資産であり、最愛の母体なのだという再認識なのです。

『宇宙へのフロンティア』のナレーションは、監督アル・ライナートが行った80時間におよぶ宇宙飛行士へのインタビューから構成されています。しかしいま、宇宙飛行士として残っているのは、24人のなかでたった1人に過ぎません。



## ●製作スタッフ

### アル・ライナート(製作・監督)

1972年以来「テキサス・マンズリー」誌の客員編集者として活躍してきました。同誌10周年記念号での記事「MOONSTRUCK」は、人類の月面着陸を記念するものですが、この記事は世界43カ国で訳され、『宇宙へのフロンティア』誕生のきっかけになりました。

### フレッド・ミラー(製作総指揮)

1970年から80年にかけて多くのドキュメンタリー映画の監督・脚本を手がけ、30以上の国際的な賞を受けています。1980年以来、監督、脚本業のかたわら「アーバン・カウボーイ」「スーパーマンⅡ」等の映画製作の資金調達や配給の仕事も手がけています。

### ブライアン・イーノ(音楽)

1948年英国生まれ。イーノはこの10年来、アンビエント・レコードやビデオインスタレーションの創作で著名になりましたが、1970年初頭にはロキシーミュージックで、性別不明のシンセサイザーとして活躍していました。この経歴を知って驚く人も多いでしょう。現在は、映画の共同制作者、プロデューサーとしても活躍しています。

# 9月9日土より独占ロードショー!

## 特別鑑賞券1,300円(当日一般1,600円・学生1,300円)

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セブン、チケットぴあ、セゾン系各劇場他でお求め下さい。

連日	12:00	1:45	3:30	5:15	7:00
土曜のみ夜8:45					

## 銀座テアトル西友

銀座線京橋駅下車 ☎03(535)6000